

日本陸軍航空関係史実概見表

別紙

暦年		作戦事変と運用	世界航空軍事の大勢	航空技術	航空用法	航空軍備	
西暦	年号						
1903	M36		米、ライト兄弟の人類初飛行				
4	37	日露戦争 ↑ ↓	気球隊の旅順攻撃参戦			臨時気球隊編成旅順派遣	
5	38						
6	39						
7	40						
8	41						
9	42			↑ 臨時軍用気球研究会設立			
10	43			↑ 徳川・日野大尉の日本初飛行			
11	44			模		気球隊編成	
12	45/T1						
13	2			索			
14	3	日独戦争 ↑ ↓	航空隊の青島攻撃参戦			臨時航空隊編成青島派遣	
15	4		伊トウエ大佐、空軍論で投獄		期		↑ 航空大隊(飛行中隊を含む)編成
16	5						
17	6						
18	7		英空軍独立		↑ 伊へ航空要員派遣 仏フォル航空団招へい 臨時軍用気球研究会解散	↑ 空中偵察戦力時代 ↑ 仏国航空用法思想の導入	↑ 航空(飛行)第一 陸軍航空部創設 陸軍航空学校創設
19	8	シベリア出兵 ↑ ↓	航空隊のシベリア出兵参戦				
20	9		米ミッチェル将軍、空軍論で軍法会議		模		
21	10						
22	11		ソ空軍建設宣言		↓ 飛行機種の種類決定		↑ 航空大隊を飛行大隊に改称
23	12						
24	13			期		↓ 飛行隊教練仮規定	
25	14		伊空軍独立		↑	↑ 航空兵科の独立 陸軍航空本部の創設 (陸軍航空部の解散)	
26	15/S1					2 6 コ 飛行中隊	
27	2			↑ 87軽爆、87重爆		↑ 聯隊制の採用 ←偵11、戦11、軽2、重2	
28	3	航空隊の済南事変参戦	仏、航空省設置	↑ 88偵察/軽爆	↑ 地上直協戦力時代 ↑ 統帥綱領の航空用法		
29	4			準 国 産 期			
30	5						
31	6			91戦(300km/h)			
32	7	満洲事変 ↑ ↓	陸軍航空大部の参戦				
33	8				92戦(320km/h)、92偵、92重爆		
34	9		仏空軍独立 米陸総司令部航空軍編成		93重爆、93双軽、93単軽		35" ←偵12、戦13、軽5、重5
35	10		独空軍独立宣言		94偵察	↓ 航空兵操典	39"
36	11				伊藤欧米視察団の派遣 95戦(400km/h)、95練1~3型	↑	54" ←偵13、戦21、軽9、重11
37	12	支那(日華)事変 ↑ ↓	陸軍航空主力の参戦				
38	13		ノモンハン事変参戦	米、陸空軍編成	97司偵(480km/h)、97重爆、97戦(460km/h)、97単軽	↑ 戦爆連合戦力時代 ↑ 航空部隊用法	↓ 空地分離編制の採用 142中隊軍備計画
39	14				98単軽、98直偵		70" 航空総監部の創設
40	15				99襲撃/軍偵、99高練、99双軽		91" 162中隊軍備計画
41	16				百式輸、百式司偵(604km/h)、百式重爆 山下欧州視察団の派遣	↑ 航空作戦綱要	106"
42	17	大東亜戦争 ↑ ↓	陸軍航空全力の戦争遂行				
43	18				1式戦(515km/h)、1式双高練、1式貨物輸、1式輸		150"
44	19				2式単戦(605km/h)、2式複戦(540km/h)	↓ 特 攻 隊 主	170"
45	20				3式戦(580km/h)	↑ 航空作戦綱要の改訂	197" 戦闘隊の強化
46	21				4式戦(624km/h)、4式重爆		279"
47	22			5式戦(580km/h)		240" 航空総軍司令部の創設	

備考 1 支那事変以降の航空軍備改変状況は複雑であるため、簡単に記述している。
2 米陸軍に航空兵科が作られたのは1983年、米空軍の独立は1947年9月である。

参考文献: 1 「陸軍航空の軍備と運用<1>」 戦史叢書 防衛庁防衛研修所戦史室著 昭和46年12月 朝雲新聞社
2 「日本航空史 昭和前期編」 昭和50年9月 (財)日本航空協会
3 「日本軍用機事典 陸軍編」 平成17年9月 野原 茂著 イカロス出版(株)